

サイバーセキュリティに係る人材の確保、育成、活躍の促進に係る主な政策課題と検討論点

【“DX with Cybersecurity”の推進】

政策課題1:サイバーセキュリティ確保のための 新たな開発・監視・対処体制の構築

<検討論点>

- ①xSIRT(例えば、CSIRT、PSIRT、DSIRT/SSIRT)ごとに特徴的な機能や体制等はあるか。これらの構築や普及に当たっての課題は何か。
- ②DXに伴いデジタル・サービスが増加する際に重要となる開発・監視・対処のプラクティスとは何か。その実現にあたっての人的資源・体制につき考慮すべきことは何か。
- ③また、実践や普及をどのように政策的に後押ししていくか。

人材需要の明確化

人材供給の円滑化

政策課題3:セキュリティ人材の活躍の促進 に向けた流動性とマッチングの機会の促進

<検討論点>

- ①DX時代におけるIT・セキュリティ人材の流動イメージ(モード)は何か。
- ②人材の流動性やそれぞれのモードに応じたマッチングの促進策は何か。また、それをどのように政策的に後押ししていくか。
※その際、サイバーセキュリティ教育(高専等)と産業界の求める人材像をどう整合していくかなど「人材育成プログラムの量と質」との関連も考慮し、全体を見渡しつつの議論も重要と考えられる。

政策課題2:DXに必要な「プラス・セキュリティ」知識 を補充できる環境・人材育成の推進

※「プラス・セキュリティ」知識は、ここでは、ITやセキュリティに関する専門知識や業務経験を必ずしも有していない人材が社内外のセキュリティ専門家と協働するにあたって必要な知識として、社会人になって以降も、時宜に応じてプラスして習得すべき知識を指す。

<検討論点>

- ①ユーザ企業の主体的なIT活用・DX実施において経営・事業を担う者が「プラス・セキュリティ」知識を補充できるよう、対象人材に応じてどのようなモデルカリキュラムが考えられるか。
- ②カリキュラムの構築や普及をいかに政策的に後押ししていくか。(普及啓発と関連する観点もあるため、中小企業や地域を含めた展開も考えられるのではないか。)

社業のデジタル化と一体として、「セキュリティ・バイ・デザイン」、DevSecOpsをはじめとする考え方に基づいた迅速で柔軟な体制が構築され得る。

(DX経営や事業を担う人材が的確な体制構築を図れる。)

外部人材に期待する業務や能力・人材像等の明確化されることにより、円滑なマッチングが実現され得る。

(DX経営や事業を担う人材が的確なジョブディスクリプション等を設定できる。)

政策進展の前提

経営者:サイバーセキュリティリスクに対する経営問題としての認識/対策に向けたリーダーシップの発揮